

対スリランカ民主社会主義共和国 国別援助方針

平成 24 年 6 月

1. 援助の意義

(1) スリランカは伝統的な親日国であり、1952 年の国交樹立以来、我が国はスリランカと国際場裏での協力などの友好関係を維持している。また同国は、我が国にとって海上輸送路の確保や、南アジアのみならず中東・アフリカ諸国との経済関係を発展させる上で、地政学的な重要性を有する。

(2) スリランカは、近年の観光業などを始めとする各種産業が着実に経済成長を遂げる一方、運輸や電力などの経済基盤の未整備問題や、地方部における社会サービスの質、地理的な影響による自然災害の発生といった課題を抱える。同時に、約 26 年にわたる国内紛争の影響により、北部や東部を中心に基礎インフラが荒廃するなど、開発が遅れている地域がある。

(3) 我が国がスリランカを支援することは、同国の更なる経済成長を促し、現地に進出している我が国企業の活動環境の改善に貢献することにつながる。また、紛争後の同国の国民和解に向けた取組と経済・社会発展を促し、南アジア地域全体の民主主義の定着と安定に大きく寄与すると共に、海上輸送路の安定にも貢献するという観点からも意義がある。

2. 援助の基本方針（大目標）：後発開発地域に配慮した経済成長の促進

スリランカの開発基本方針を踏まえ、着実に経済成長しているスリランカの一層の成長と安定化を促すため、経済成長のための基盤整備を中核とした支援を行う。また、同国の紛争の歴史や開発の現状を踏まえ、後発開発地域にも留意した公平かつ公正な支援を行うと共に、災害などへの同国の脆弱性に配慮する。

3. 重点分野（中目標）

(1) 経済成長の促進

スリランカの一層の経済成長には、首都圏を中心とする国内の物流の改善や国際的な連結性の向上のための運輸インフラの整備、安価な電力の安定供給などを図ることが必要である。このため、スリランカの経済発展を促進しつつ、我が国進出企業の活動環境の整備・改善にも寄与する運輸・電力基盤などのインフラ整備を、我が国技術の活用も視野に入れつつ積極的に支援する。また、科学技術協力を含め、成長を支える産業の振興にも留意する。

(2) 後発開発地域の開発支援

スリランカでは経済成長に伴い、地域間格差や所得格差が拡大しつつある。また、過去の紛争の影響により開発が著しく遅れている地域もある。このため、開発が遅れている地域の産業発展を通じた生計向上に向け、農業分野を中心とした産業育成、農業関連インフラ整備を支援する。また、沿岸部などの漁業を中心とした地域についても配慮し、北部を中心に地雷除去を支援する。

(3) 脆弱性の軽減

経済発展の一方で、社会サービス基盤の体制整備の遅れや、季節風の影響を強く受ける島国であるとの特質から豪雨などの災害が頻発するなど、同国の抱える脆弱性への対応が求められる。特に保健・医療などの分野を中心に、関連施設の整備や能力強化などの社会サービス基盤の改善支援を行うと共に、防災能力強化に向けた政府の体制整備を支援する。

4¹ 留意事項

(1) スリランカの国民和解に向けた取組を後押しするため、同国の地域・民族バランスにも配慮した支援に留意する。

(2) 2012年には世界銀行がスリランカに対する援助方針を改訂し、また、近年中国、インドなど新興国が対スリランカ支援を積極的に実施している。これら他ドナーの動向に留意した支援を行う。

(3) スリランカの経済発展を持続的に支えるためには、環境保全にも配慮する。また、同国が適切かつ効率的な経済・社会運営を一層行えるよう、高等教育を始めとする人材育成・科学技術などの分野への支援も検討していく。

(4) 官民連携、NGO・国際機関との連携についても引き続き重視する。

(了)

別紙： 事業展開計画

¹ なお、同国を対象として実施された過去のODA国別評価は次のとおり。

スリランカ 国別評価（2007年度） 報告書掲載先：

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/srilanka/kn07_01_index.html

スリランカ 国別評価（2002年度） 報告書掲載先：

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/srilanka/kn02_01_index.html